第6学年 国語科学習指導案

河内長野市立小山田小学校
指導者　中谷 祐斗

1.　日 時　　令和6年11月28日（木） 第5時限 14:00～14:45

2.　場 所　　南校舎3階 第6学年1組教室

3.　学年・組　　第6学年1組（24名）

4.　単元名　　筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう（読むこと 書くこと）

5.　教材名　　「『鳥獣戯画』を読む」「 発見、日本文化のみりょく」（光村図書）

6.　単元の目標

（1）比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。　〔知識及び技能〕（1）ク

（2）目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B（1）ウ

（3）目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）ウ

（4）言葉がもつ良さを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

7.　言語活動

・学校図書館などを利用し、日本文化について調べたことや、それに対する考えを文章に表す。

8.　教材観

本教材の「『鳥獣戯画』を読む」は、筆者がアニメ映画の監督の視点で『鳥獣戯画』の素晴らしいと感じている点について、解説を交えながら感想や意見を述べている説明的な文章である。ここでは、筆者の『鳥獣戯画』に対する見方を、表現や構成の工夫とともにとらえ、自分のものの見方を広げていく。そして「発見、日本文化のみりょく」で，日本文化の評価したいことを、読者に伝わるように表現を工夫して書く学習へと展開していく。

「『鳥獣戯画』を読む」は、まず、絵と読者を出会わせ、次に「絵」と「絵巻物」の作品の解説や読み解きを進め、最後に筆者の主張を述べるという尾括型の文章である。本論後半では、『鳥獣戯画』だけでなく絵巻物全般を評価していく。結論では、『鳥獣戯画』を「人類の宝」という象徴的な言葉で締めくくっている。記述の特徴は、絵の正確な観察をもとにして筆者の解説・評価が繰り返し述べられていることである。絵から見る表情・筆さばき・時間の流れなど評価する対象が次々と示され、さらにそれらを評価する言葉は多様な表現が見られる。絵と筆者の言葉が連動して生まれる躍動感、体言止めや語りかけるような表現等読者を引きこむ書きぶりを感じ取ることができる。筆者の「読み取ったことや感じたことを表す表現」や文章を分かりやすく伝える構成などの技を数多く獲得することができる。その後、「発見、日本文化のみりょく」では、読み取った工夫を用いて書く活動を行うことで、自分の考えを効果的に伝える方法について理解することができるようになると考えられる。

9.　児童観

1学期の「時計の時間と心の時間」では、筆者の主張について自分の経験を踏まえた意見文を書く活動を行ってきた。その際、自分の経験と筆者の主張を照らし合わせて繋がりがあるのかどうかを意識させて書かせた。また、「デジタル機器とわたしたち」などの教材では、自分の主張に説得力を持たせるために、資料を集めて整理して書く活動を行ってきた。

本学級の児童は、昨年度からの国語科の取り組みにより、自分の考えを書こうとする姿勢が増えてきている。文章の構成も「はじめ・中・おわり」を意識して書くことができている児童も多い。このような点において、昨年度からの取り組みの成果が出ている。

しかし、複数の事柄を整理して考えることが苦手な児童が多い。例えば、「筆者の主張に対して、あなたの考えはどうですか。」などの問いに対しての意見文を書くことはできている。しかし、「デジタル機器やわたしたち」の単元のような資料を集めて意見文を書くことに苦手意識を持つ児童が多い。特に、資料の選定の際に、自分の主張と違うものを選んだり、読み取った内容をうまく自分の主張に繋げたりすることが苦手である。

「『鳥獣戯画』を読む 発見、日本文化のみりょく」では、良さを伝えるためのポイントを提示し、児童に合ったワークシートを活用して資料を整理していくことでより良い文章を書くことができると良いと考えている。

10.　指導観

（1）全体を通して

本単元でつけたい力は、筆者のものの見方や考え方をとらえ、表現の工夫をとらえながら読む力と日本文化のみりょくを伝えるため、事実と感想、意見などを区別して簡単な解説の文章を書く力である。「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう」という単元を貫く目標を設定し、前半の『『鳥獣戯画』を読む』では、絵と文章とを対照して、筆者が何に着目し、それをどのように評価しているのか、筆者のものの見方や考え方、論の進め方を捉えて読んでいく。これらを意識しながら読むことで、自分が紹介する文章を書くときの表現の工夫として生かされていくと思われる。書くことを意識した読み取りの段階では、「筆者は絵のどこに目を付け、どんな見方をしているのか」「筆者はどんな言葉を使って『鳥獣戯画』を説明したり評価したりしているのか」「筆者は読者に分かりやすく伝えるためにどんな工夫をしているのか」という読みの視点を与える。

「発見、日本文化のみりょく」では、伝える相手（校内のALT）を意識して、構成や表現を工夫することを意識させ、学習を進めていく。まず、書き出しを工夫させる。読む人を引き込むためにはどのような表現をしていけばよいのかを児童に考えさせていきたい。次に、選んだ日本文化のみりょくについて調べ、どこに着目すればそのみりょくが伝わりやすいのかを整理させていく。最後に、それを根拠に読み取ったことや感じたことを表す表現を使って自分なりに日本文化のみりょくが伝わるような推せん文を書かせる。その際に、「評価を表す言葉」や、「読み取ったことや感じたことを表す表現」を使わせるなどして、表現の効果を高めたい。また、「簡単に書くところ・詳しく書くところ」も意識させ文章を書かせていきたい。完成した推せん文は校舎内の廊下など児童が見られる場所に提示し、満足感を味わわせるようにするとともに、友だちと自分の作品を比較させ、自分のものの見方や表現の方法を広げさせるようにする。

（2）各時間を通して

第1～3時には、事前課題として考えさせた自分の解説文と比べながら、絵と文章を照らし合わせ筆者の絵に対する評価の仕方・文章の表現などを捉えていく。教科書に線を引かせるなど、絵と文章を照合しながら考えさせていくような工夫を行う。

第4～5時では、「発見、日本文化のみりょく」の学習を行っていく。まず、学習計画の見通しを持たせ、最終的な目標を意識させたい。自分が選んだ日本文化についての良さについて調べ、整理していく時間にしていきたい。その中で、何を一番詳しく伝えたいのかを明確にさせておく。

第6～7時では、調べた内容をもとに文章の構成や表現の工夫を考えていく。その際、付箋を用いて内容の順番を考えさせていきたい。また、どのような言葉を使えば、より日本文化のよさが伝わるのかを考えさせていきたい。

第8～10時では、日本文化のよさを伝える書き方を考えて、文章の下書きをまとめていく。前時までに作成したメモや集めた資料をもとに「初め・中・おわり」を基本構成として文章を書いていく。途中で推敲の時間を取り、文章の構成や表現方法を見直していきたい。また、その際鳥獣戯画で学んだ表現方法を取り入れることができているのかも合わせて確認させていく。

第11時には、下書きのまとめをもとに清書を行っていく。また、お互いの文章を読み合い交流を行う。その際に、交流の観点を明確にしていきたい。

今年度、「自分の考えをもち、表現できる子どもの育成をめざして」というテーマで、「考えを形成する力」をつけるための授業づくりに重点を置いている。本校では、集めた情報を基に、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、意見をまとめることができる6年生の姿を目指して取り組んでいる。その過程として、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書く力をつけてきた。そして、この教材では、①簡単に書くところ、詳しく書くところを区別させる。②事実と感想、意見の区別をさせる。③表現の工夫をしてよさを伝えることに取り組ませたい。その際、誰に向けて書く文章なのかを意識して取り組ませていきたい。

11．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。 （（1）ク）	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 （B（1）ウ） ②「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 （C（1）ア） ③「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 （C（1）ウ）	粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。

12．　単元の指導と評価計画（全11時間　本時9/11）

時	学習内容	学習評価（◎記録に残す評価〇指導に生かす評価）			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1	●学習の見通しを持つ ●絵と照らし合わせながら読み、筆者の評価を捉える。 ・筆者が絵のどの部分を取り上げているのか、何に着目しているのかを本文に線を引かせて読み取らせる。 構造と内容の把握	〇			比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。 【知】〈ノート・発言〉
2 3	●筆者のものの見方や、それを伝えるための工夫について気づいたことをまとめる。 ・観点を「論の展開」「表現の工夫」「絵の示し方」と明確に提示する。 ・筆者の工夫の中で、特に効果的だと思った点を理由とともにまとめる。 構造と内容の把握、精査、解釈	◎	◎ ②		比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。 【知・技】〈ノート・発言〉 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章の構成を捉えて要旨を把握している。 【思・判・表】〈発言・記述〉
4 5	●「発見、日本文化のみりょく」の学習の見通しを持つ。 ●題材を決めて、情報を集める。 ①文化の決定 ②良さを調べる。 （評価、感想に当たる部分を明確にしておく）		〇 ①		書くために必要な情報を集め、情報を整理している。 【思・判・表】〈記述〉

	③伝えたいよさを決める。その中でも、詳しく書くところと簡単に書くところを区別する。 ・図や表を用いて、整理させる。 題材の設定、情報の収集、内容の検討				
6 7	●文章の構成を考える。 ・書く内容の順番を決める。 （「構成を考えるときは」、「よさを伝える文章を書くときは」を参考にさせる。） 構成の検討		○ ①		粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化の良さを伝える文章を書こうとしている。 【主】〈記述〉
8	●日本文化のよさを伝える書き方を考えて、表現の工夫を活かした文章の「はじめと中」の下書きをまとめる。 ・書くときのポイントを確認する。 考えの形成、記述		◎ ①		目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【思・判・表】〈記述〉
9 本 時	●日本文化のよさを伝える書き方を考えて、表現の工夫を活かした文章の「中」の下書きをまとめる。 ・書くときのポイントを確認する。 考えの形成、記述		◎ ①	○	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【思・判・表】〈記述〉
10	●日本文化のよさを伝える書き方を考えて、表現の工夫を活かした文章の「中とおわり」の下書きをまとめる。 ・書くときのポイントを確認する。 考えの形成、記述		◎ ①		目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【思・判・表】〈記述〉
11	●文章の清書を行う。 ●書いた文章を読み直し、自分が伝えたいことを伝えるためには、何が大切になるのかについて考える。 ●全体の振り返りを行う。 考えの形成、記述　推敲と共有		○ ①	◎	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【思・判・表】〈記述〉 学習の見通しを持って、自分の意見文を伝え合っている。また、相手の意見文に対しても意見を言っている。 【主】

13．本時の展開（9時間目）

（1）本時の目標

選んだ日本文化のよさが伝わるように、文章の構成を考え、表現を工夫して書くことができる。

（2）本時の評価規準

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

【思考・判断・表現①】

（3）本時の判断基準

おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）への支援
・目的や意図に応じて簡単に書くところ、詳しく書くところを区別して書いている。 ・事実と感想、意見とを区別して書くことができている。	・文章の書き方が分からない児童に対しては、文章の展開を示したワークシート等を提示し、必要事項を書き込む形で文章の構成を考えさせていく。

（4）本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導 入 5 分	①前時までの学習を振り返る。 ・前時で作成した「はじめ」部分を読む。	・文章全体の構成について確認する。	
展 開 5 分	②本時のめあてを確認する。 めあて　日本文化のよさを伝える書き方を考えて、書き表し方の工夫を活かした文章の下書きをまとめよう。		

30分	③書くときのポイントを確認し、「中」の部分を書く。 ④構成メモや資料をもとに、下書きをまとめさせる。 ・随時、自分の書いた文章を見返す時間を取る。 ・書き加えたい内容は、別の行に書かせておく。 ・周りの児童の文章を聞き、良さを取り入れさせる。	○書くときのポイント ・簡単に書くところ、詳しく書くところの区別 ・事実と感想、意見の区別 上記の点を踏まえて、日本文化のよさが伝わりやすい文章を書くように指導する。 ・書くときのポイントごとに文章を作成していけるように声かけを行う。 ・推敲するための視点をもとに、自分の文章を見直していく。	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【思・判・表】〈記述〉 ［記録に残す評価］
まとめ5分	⑤学習をふり返る。	・ふり返りの視点を伝える。	

【板書案】

【めあて】
日本文化のよさを伝える書き方を考えて、書き表し方の工夫を活かした文章の下書きをまとめよう。

【書くときのポイント】
・簡単に書くところ、詳しく書くところの区別
・事実と感想、意見の区別

【チェックシート】
□かんたんに書くところ、詳しく書くところの区別ができているか。
□事実と感想、意見の区別ができているか。

【より良くするために】
□表現の工夫
（鳥獣戯画で学んだ表現）
□文末表現
（バラバラになっていない？
です・ます　である　～だ　等）
□適切な接続詞が使えているか
（文がつながっているか）
□段落分け
（内容のまとまりで分ける）

ゴールの文章例

○教科書

和食の心

高橋　さや

日本には、和食という、世界にじまんできる食文化がある。

和食については、栄養バランスがよくて健康的であることや、だしにふくまれる「うまみ」によっておいしくなることが、よく知られている。それらは、和食を語るうえで欠かせない特長だ。

しかし、私がいちばん伝えたい和食のみりょくは、別にある。それは、自然を敬い、そのめぐみに感謝して、素材を大切にするという点だ。和食は、しゅんの食材を、素材本来の味をいかして食べることを大事にしている。例えば、和食の定番、ほうれん草のおひたし。代表的な味付けは、だし、しょうゆ、みりん。シンプルだからこそ、素材の味が引き立つ一品だ。他にも、さしみのように、しんせんな食材を生で食べるのも、和食ならではだ。

さらに、和食は、地域に根付いた多様な食文化でもある。日本各地に、その土地で採れたものを使ったさまざまな郷土料理がある。例えば、奈良県の「茶めし」。大和（やまと）まなとよばれる伝統野菜や、奈良県の地鶏（じどり）である大和肉鶏が入った、風味豊かなたきこみご飯だ。他にも、房総（ぼうそう）の海のさちがたっぷり入った千葉県の「さんが焼き」や、かきのようしょくが古くからさかんな広島県の「かきめし」など、その土地で採れるものをいかした食文化が、全国にある。

茶めし

このように、和食には、その時期に、その土地で採れる自然のめぐみを、大切にいただこうとする心がある。そこにこそ、和食の本当の価値があるのだ。

○教師作成例

「日本の食の品質管理」

ほっかほかのご飯に乗る黄金の輝き。ぷるんとした弾力。ほのかに口に広がる甘さ。あなたは、この料理を食べたことがあるでしょうか。これは、日本で朝食の定番として食べられている卵かけご飯です。現在では、TKG という言葉も広く知られ、様々なアレンジもされている料理です。また、２０２２年には、「卵フェスIN池袋」など多くのイベントも行われています。

今回、私は、卵かけご飯の美味しさを伝えたいのではありません。私が伝えたいのは、日本の生食文化を可能にする「食の品質管理の高さ」です。

日本では、よく卵かけご飯の他にもお刺身など生の食材を食べることが多いですよね。では、海外では、どうなのでしょうか。実は、ほとんど食べられることはありません。海外では、食中毒の危険があるとして避けられていることが多いです。生＝危険と思われているのです。しかし、日本ではそのような考えはあまりなく、日常的に食文化として広がっています。これは、とても驚くべきことなのです。

では、どうして日本でこのような生食文化が、大きな危険もなく親しまれているのでしょうか。それは、日本の品質管理の高さがあるからです。２０１１年に食中毒にかかった人数で比較して見ましょう。アメリカは、約４７７０万人。日本は、約１０００人。およそ４０００倍もあります。これだけ見ても、日本の食の品質管理の素晴らしさが分かりますよね。これは、賞味期限の短さや何段階も検査をクリアしないといけない品質管理の賜物なのです。

このように、日本の食の安全は、世界の中でもトップクラスに高いです。このような品質管理が徹底されているからこそ、卵かけご飯をはじめとする日本の生食文化が安全に親しまれているのです。これを読んだら、安心安全にほっかほかのご飯と卵のハーモニーを楽しんでみたくなりませんか。

【ワークシート】

ご高評欄

事前学習

鳥獣戯画を読む
発見、日本のみりょく

名前（　　）

鳥獣戯画の絵を見て、自分なりに良さを伝える文章を書いてみよう。
（注意点）
①良さを見つける。
②具体的に書く（絵の描き方・表現の仕方など）

学習計画

鳥獣戯画を読む
発見、日本のみりょく

名前（　　）

単元目標

学習計画

①鳥獣戯画・・・良さを伝えるための表現を学ぼう
②発見、日本文化のみりょく
・伝えたい日本文化を選ぶ
・良さを調べる
・伝えたい内容を整理
←
・下書き
←
・清書

調べ学習

めあて

日本文化【　　】

（調べるポイント）
・選んだ日本文化の簡単な説明
・何に注目すれば、より相手に良さが伝えあるのか。（ここほんまに大切！）

◎簡単な説明

◎注目して欲しいところ
・
・
・
・

メモ書きシート

【メモ書きシート】　名前（　　）
（キーワード）

（詳しい説明）※メモなので箇条書きでもOK

（あなたの感想、評価）

構成メモ

めあて

【文章の構成】

はじめ	中　軽・重	書き出し文（主張・話題提示）
中　軽・重	中　軽・重	
中　軽・重	中　軽・重	
おわり	中　軽・重	まとめ（主張）

【構成の理由】※キーワードを構成の表に書いた順番にした理由を書く。

下書き用紙

「　　」を書く（　　）